

一般社団法人製剤機械技術学会
2017年度 特別講演会プログラム

日時： 2017年6月16日(金) 14:45～16:45

場所： 日本橋ライフサイエンスハブ 8F (東京都中央区)

14:45～14:50 開会の辞 製剤機械技術学会 会長 草井 章

14:50～15:45 特別講演 1 座長 草井 章 (あすか製薬株式会社)

演 題： ワクチンの果たしてきた役割および今後のプレークスルー、
ならびに注射医薬品、経口固形医薬品の剤形や製造システムの
パラダイムシフトについて

一般社団法人 日本ワクチン産業協会 理事長
第一三共株式会社 参事

菊池 正彦



講演要旨

パートI：ワクチンは治療薬と違い、人類が本来有している防御機能を賦活化することにより、永遠のテーマである感染症との闘いに終止符を打てる唯一の医療行為である。その果たしてきた役割と今後予想される展開について紹介する。
パートII：CTスキャン注入システムの構築による医療現場の利便性向上、診断技術向上への貢献について紹介する。
パートIII：近年固形製剤製造技術として話題となっている連続生産について、今後の展開と課題中心に個人的考えを紹介する。

15:50～16:45 特別講演 2 座長 寺田勝英 (高崎健康福祉大学)

演 題：『クラリスロマイシンの原薬物性を利用・制御した製剤設計』

静岡県立大学薬学部教授

板井 茂



講演要旨

クラリスロマイシンは本邦で開発された14員環マクロライド系抗生物質で、広範な抗菌スペクトルを有するため、医療現場において広く使用されている。
その原薬物性の特徴は①低pH条件下で不安定であること、②塩酸溶液中でゲルを形成すること、③水溶液中で瞬時に準安定形から安定形に結晶転移を起こすこと、④苦味を有することである。
本講演においては、この特異的な原薬物性を利用・制御した製剤設計について紹介する。